

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20241058

研究課題名（和文） 地中海島嶼社会の経済社会ネットワークと地域研究の方法と視角

研究課題名（英文） Socio-Economic Networks of Mediterranean Islands and Methods of Area Studies.

研究代表者

大月 康弘 (OTSUKI YASUHIRO)

一橋大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：70223873

研究分野：経済史、地中海地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：地中海、海域、ヨーロッパ、イスラム、ギリシア、エジプト、スペイン、イタリア

1. 研究計画の概要

地中海世界における島嶼は、歴史上人間の活動する橋頭堡として重要な拠点だった。本研究は、この島嶼空間に注目し、自然・生態環境に規定された人々の生活・経済空間としてのマイクロエコロジー圏、および各マイクロエコロジー圏が対外世界と切り結んだ経済社会ネットワークの構造分析をめざす。それを、政治的、人為的に設定され認知されてきた「地域」「海域」概念、および歴史的統一体としての地中海世界の存在論に批判的検討を加えながら推進している。分析対象は、ナクソス、マルタ、イビサの各島嶼、および「陸の島嶼」としてのエジプト・オアシスである。

2. 研究の進捗状況

(1) ナクソス、マルタ、イビサの各島嶼、およびエジプト・オアシスを対象に、研究メンバー間で主分担を決めた上で、以下の項目に沿って分析を推進してきた。

①経済的存立構造・社会関係・対外関係に関する資料収集、その系統的分析。

②各国統計局、地元自治体より収集したデータと、独自調査の結果データとの突き合わせ。生産状況、企業活動状況、人口動態、就業事情、家族構成状況、対外経済関係状況からのその分析。

平成 20～22 年度は、各島嶼社会の対外関係の側面に焦点を合わせて考察した。

③現地インフォーマントからの情報の収集、整理。各サンプル空間の歴史、今日的社会生活の再構成作業を地図上で図示化。

④文献情報、データ資料を補完するインフォーマントへの聞き取りも推進。

以上の聞き取り調査を中心に得られたマイクロデータの集積によって、各サンプル空間の歴史的・今日的な社会生活、対外ネットワークの形成過程と現況について、より立体的な再構成を行うべく作業を推進した。

(2) なお、歴史事情に規定された各島嶼は、それぞれに独特な対外ネットワークを有しているため、その諸相を個性的に類型化すること、また、地中海世界に普遍的な現象として把握するために、研究メンバー間で議論を蓄積した。2度の国際ワークショップ（2009年3月於チュニス大学、2010年9月於トリエステ大学）を行い、成果の中間報告を行うとともに、地中海周辺諸地域の研究協力者とも意見交換を行った。

(3) Mediterranean World 20 号を、成果の中間取り纏めを兼ねて刊行した（2010年6月）。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

「2. 研究の進捗状況」(1)-①②③④で記した各項目ともに、初期目標に沿った成果を挙げていると認識している。それは、各班とも調査現地での資料収集を完了し、その分析を推進していること、また、現地インフォーマントとの交流によって、書かれた資料・統計からは得られない貴重な事実を収集・分析していること、による。その成果の一端は、チュニジア共和国チュニス大学との共催（2009年3月）、また、イタリア共和国トリエステ大学およびヴェネツィア大学との共催（2010年9月）による国際セミナーにおいて中間報告を行い、成果の

中間取り纏めとして、*Mediterranean World* 20号を刊行した(2010年6月)。また、同21号を、2012年3月を目標に刊行予定である。

4. 今後の研究の推進方策

現在推進中の作業を継続することを、第一の目標としたい。

つまり、資料・統計分析をさらに推し進め、現地インフォーマントから得た情報、また、これから補足的に得る情報を、論文のかたちでまとめることが、研究チームの優先課題である。その中で、研究方法についての討議を行い、地中海島嶼社会の経済社会ネットワーク分析に関わる地域研究方法論を深めていく。

この研究作業は、これまで「国民国家」「農業社会」「土地制度」といった陸地中心の概念を中心に組み上げられた経済史や地域研究の方法に対し、建設的な批判の論点を含むことになるだろう。方法論に関する成果取り纏めも、併せて行うこととする。

以上の計画に沿った成果の最終的取り纏めを行い、*Mediterranean World* 21号を、2012年3月を目標に刊行する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計28件)

① Hiroshi Kato & Erina Iwasaki, Village Association in Cairo: A Study on Urban-Rural Relationship in Egypt, 日本中東学会年報 (AJAMES)、26-1、2010年、1-40頁、査読有。

② Hiroataka Tateishi, «El Ebusitano»: el primer periódico de Ibiza en los fondos de una biblioteca Americana. *Mediterranean World* 20, (2010年)、87-109頁、査読無。

[学会発表] (計14件)

① Yasuhiro Otsuki, Levissi Village (Kaya) and the Population Exchange between Greece and Turkey. Mediterranean Studies Group Workshop (at Trieste University, 2010年9月2日)

② Hiroataka Tateishi, The Contemporary History of Ibiza and ses Salines (Salt Evaporation Ponds. Mediterranean Studies Group Workshop (at Trieste University, 2010年9月2日)

③ 加藤博「ナポレオン『エジプト誌』と近代文明」日本中東学会第26回年次大会公開講演会・シンポジウム(於中央大学、2010年5月8日)

[図書] (計7件)

① 中島由美 (町田和彦、林徹と共編)『文字の事典』大修館書店、2011年、印刷中。

② 大月康弘「イヴィロン修道院の所領形成と帝国統治」渡辺節夫編『ヨーロッパ中世社会における統合と調整』創文社、2011年、282-311頁(332頁)。

③ Nobuo Misawa, Turk-Japon Ticari Iliskileri. Istanbul Ticaret Odasi (Istanbul, TURKEY), 2011, 180頁。

④ 加藤博『イスラム経済論』書籍工房早山、2010年、238頁。

⑤ 加藤博 (水島司らと共編)『環境と歴史学歴史研究の新地平』勉誠出版、2010年、232頁。

⑥ 竹中克行・齊藤由香『スペインワイン産業の地域資源論』ナカニシヤ出版、2010年、330頁。

⑦ 中島由美 (野町素己と共著)『ニューエクスプレス セルビア語・クロアチア語』白水社、2010年、149頁。